

岩手医科大学歯学会第73回例会抄録

日時：平成24年2月25日（土） 午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C棟6階）

特別講演

歯学部改革・2012年

○永井 成美

ハーバード大学歯学部・本学学長顧問

2011年秋から半年、Society・Tutor制度、3年移行カリキュラム、5年Case Presentation、国家試験対策など、歯学部改革の内容が少しずつ目に見えるようになってきました。今年はいよいよ、本格的に新しいカリキュラムが実施されるとともに、診療参加型臨床教育がスタートします。この診療参加型臨床教育は欧米の大学で実施されているシステムですが、30年前（私は6年生）には岩手医科大学歯学部でも行われていました。

2012年度の歯学部改革の大きな柱は、岩手型・診療参加型臨床教育システムを再構築することにより、質の高い高度先進歯科医療を多くの患者さんに提供し、かつ将来のリーダーとなる歯科医師を育成することです。この診療参加型臨床教育システムを歯学部学生のみならず、若手歯科医師にも適応することにより卒業教育の一端も担い、さらには歯科医療センターの活性化にもつながります。

総合歯科外来での診療参加型臨床教育システムにおける高度先進歯科医療では、従来の私費診療の中でもインプラントが最も大きな軸になります。ブリッジや部分床義歯がインプラントへ、総義歯がインプラントサポート義歯へと、また、陶材焼付鑄造冠や硬質レジン鑄造冠がオールセラミッククラウンへ、デジタルデータ評価法を用いたホワイトニング、Esthetic Crown Lengtheningなど、高度な審美性の構築を目指します。さらには、デジタルデンティストリーによる光学印象やCAD/CAMによる修復物の作製など、日本ではまだ広く普及してい

ない欧米の最先端の歯科医療を導入していきます。

歯学会の場を借りて、岩手型・診療参加型臨床教育システムのあり方と進め方を皆さんと共有し、一緒に考えたいと思います。

さらに、改革の一環として本年度6月から始まる、Joint Advanced Education Course in Implant Dentistry hosted by Iwate Medical University and Harvard School of Dental Medicineを紹介し、日本において昨今大きな社会的問題となっている“インプラント治療の失敗”の原因に触れ、続くシンポジウムにつなげます。

シンポジウム

講演1. インプラントの安心・安全とこれからの臨床教育

○永井 成美

ハーバード大学歯学部・本学学長顧問

昨今、日本で社会問題となっている“インプラント治療失敗の続出”は、インプラント教育システムに起因する部分が大きいと考えられます。欧米においても、多かれ少なかれ同様の問題を抱えており、大学でのインプラント卒業教育および卒業教育の徹底がはかられています。今回の歯学部改革においてもインプラントの卒業教育を担う目的で、Harvard School of Dental Medicineとのジョイントコースを実施します。

本シンポジウムにあたり、アメリカでの歯学部の卒業卒業インプラント教育および、AAID (American Academy of Implant Dentistry) のガイドラインについて紹介します。また、HSDMの歯学部学生や、補綴や歯周の大学院生が実際に担当している症例を通して、どのようにインプラント治療を学んでいるかを紹介します。